「釧路湿原自然再生協議会」

第３３回　再生普及小委員会

令和元年６月２５日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

釧路湿原自然再生協議会

第33回　再生普及小委員会

日時：令和元年６月２５日（火）14:00～15:30
場所：釧路地方合同庁舎７階　第５会議室
（釧路市幸町 10 丁目 3 番地）

---------- 議 事 次 第 ----------

１，開会
２，議事
　１）再生普及小委員会の活動報告
　２）第３期再生普及行動計画の評価及び第４期計画（案）の検討について
　３）その他
３，閉会

---------- 配 布 資 料 ----------

・　議事次第
・　再生普及小委員会　委員名簿
・　第３３回再生普及小委員会 出席者名簿
・　第３３回再生普及小委員会　資料
　［資料 1］　再生普及行動計画オフィス取組みについて
　［資料 1-1］　「ワンダグリンダ・プロジェクト 2019」応募状況
　［資料 1-2］　環境教育の取組み及び自然再生への参加機会について
　［資料 2］　第３期釧路湿原自然再生普及行動計画の評価および第４期計画（案）の検討について
　［資料 2-1］　ワンダグリンダ・プロジェクト 実施状況
　［資料 2-2］　湿原学習のための学校支援ワーキンググループ 取組み課題の推進
　［資料 2-3］　情報発信・普及活動
　［資料 2-4］　湿原学習のための学校支援ワーキンググループ 取組み課題の推進
　　アンケート共通項目
・　「ワンダグリンダ・プロジェクト 2019」活動報告書
・　第３２回再生普及小委員会ニュースレター
・　意見・要望アンケート用紙

釧路湿原自然再生協議会

第３３回再生普及小委員会　出席者名簿

■個人(6名)　　(敬称略、五十音順)

No	氏　名	所　属
1	君　塚　孝　一	自然文化創舎
2	清　水　信　彦	
3	新　庄　久　志	釧路国際ウェットランドセンター技術委員長（環境ファシリテーター）
4	高　橋　忠　一	
5	蛭　田　眞　一	
6	吉　中　厚　裕	酪農学園大学

■団体(6団体)　　(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	出席者名
1	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	代表幹事　芳賀 孝朋
2	釧路武佐の森の会	会長　大西 英一
3	公益財団法人北海道環境財団	環境教育課長　山本 泰志
4	こどもエコクラブくしろ	近藤 一燈美
5	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所	渡會 敏明
6	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	井上 雅子

■オブザーバー(１機関)　　(敬称略)

No	団体/機関名	出席者名
1	釧路商工会議所	振興課長 斎藤 大

■関係行政機関(3機関)　　(敬称略)

No	団体/機関名	出席者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	治水課長補佐　市川 嘉輝
2	環境省 釧路自然環境事務所	次長　徳田 裕之
3	林野庁　北海道森林管理局	釧路湿原森林ふれあい推進センター 所長　川渕 義昭

「釧路湿原自然再生協議会」

第３３回　再生普及小委員会

資　料

令和元年６月２５日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

目　　次

【再生普及小委員会の活動報告】
資料１　再生普及行動計画オフィスの取組みについて　・・・・・・　1
資料１－１　「ワンダグリンダ・プロジェクト 2019」応募状況　・・・・　7
資料１－２　環境教育の取組み及び自然再生への参加機会について　・・・　１１

【第３期再生普及行動計画の評価及び第４期計画（案）の検討について】
資料２　第３期釧路湿原自然再生普及行動計画の評価および　・・・・　１５
第４ 期計画（案）の検討について
資料２－１　ワンダグリンダ・プロジェクト 実施状況　・・・・・・　１９
資料２－２　湿原学習のための学校支援ワーキンググループ 取組み　・・・　２３
課題の推進
資料２－３　情報発信・普及活動　・・・・・・・・・・・　２５
資料２－４　釧路湿原自然再生協議会構成員を対象としたアンケート　・・・　２７
回答
アンケート共通項目

釧路湿原自然再生協議会
再生普及小委員会　委員名簿

計:68名

■個人(29名)　　(敬称略、五十音順)

No.	氏　名	所　属
1	石　岡　透	
2	伊　藤　毅	上智大学
3	甲斐田　直子	筑波大学システム情報系（社会工学域）
4	金　子　正　美	酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類　教授
5	神　戸　忠　勝	
6	君　塚　孝　一	(有)自然文化創舎
7	木　村　勲	
8	小　松　繁　樹	
9	貞　國　利　夫	釧路市立博物館
10	佐　野　修　久	大阪市立大学大学院 都市経営研究科
11	清　水　信　彦	
12	新　庄　久　志	釧路国際ウェットランドセンター技術委員長(環境ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ)
13	杉　澤　拓　男	
14	高嶋八千代	
15	高　橋　忠　一	
16	竹　中　康　進	
17	橘　利　器	トラウトフォーラム会員
18	橘　治　國	特定非営利活動法人 水圏環境科学研究所 理事長
19	鶴　間　秀　典	
20	照　井　滋　晴	特定非営利活動法人 環境把握推進ネットワーク-PEG 代表
21	中　村　太　士	北海道大学大学院　農学研究院　教授
22	平　岡　俊　一	滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科　准教授
23	蛭　田　眞　一	
24	松　本　文　雄	
25	矢　吹　哲　夫	酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類　教授
26	吉　中　厚　裕	酪農学園大学
27	吉　村　暢　彦	北海道大学環境科学院
28	渡　邉　剛　弘	上智大学
29	渡　辺　義　勇	

■団体(24名)　　(敬称略、五十音順)

No.	団体/機関名	代表者名
1	阿寒国際ツルセンター（グルス）	主任解説員　河瀬　幸
2	釧路観光連盟	会長　中山　勝範
3	釧路国際ウェットランドセンター	理事長　蝦名　大也
4	釧路自然保護協会	会長　神田　房行
5	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	代表幹事　芳賀　孝朋
6	釧路湿原国立公園連絡協議会	会長　蝦名　大也
7	釧路シャケの会	会長　小杉　和寛
8	釧路武佐の森の会	会長　大西　英一
9	こどもエコクラブくしろ	近藤　一燈美
10	公益財団法人日本鳥類保護連盟釧路支部	支部長　小柳　慶吾

No.	団体/機関名	代表者名
11	公益財団法人日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	チーフレンジャー　原田 修
12	公益財団法人北海道環境財団	理事長　小林　三樹
13	国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 水環境保全チーム	上席研究員　村山　雅昭
14	さっぽろ自然調査館	代表　渡辺　　修
15	塘路ネイチャーセンター	センター長　鷲見　祐将
16	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所	理事長　赤松　里香
17	特定非営利活動法人 くしろ・わっと	理事長　小林　友幸
18	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長　百瀬　邦和
19	特定非営利活動法人 鶴居タンチョウ元亀村	事務局長・理事　佐藤　吉人
20	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長　黒澤　信道
21	北海道ウチダザリガニ防除ネットワーク	代表　高橋　克巳
22	北海道標茶高等学校	校長　三上　拓志
23	北海道プロフェッショナルフィッシングガイド協会	会長　テディ齋藤
24	ボランティアネットワークチャレンジ隊	代表　佐竹　直子

■オブザーバー(5団体)　　(敬称略)

No.	団体/機関名	代表者名
1	釧路商工会議所	会頭　栗林　定正
2	釧路町商工会	会長　土井　茂人
3	標茶町商工会	会長　田中　進
4	弟子屈町商工会	会長　桐木　茂雄
5	鶴居村商工会	会長　大津　泰則

■関係行政機関(10機関)　　(敬称略)

No.	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長　伊藤 晃
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長　安田　直人
3	林野庁 北海道森林管理局	局長　新島　俊哉
4	北海道 釧路総合振興局	局長　山口　修司
5	北海道教育庁 釧路教育局	局長　鈴木　淳
6	釧路市	市長　蝦名　大也
7	釧路町	町長　小松　茂
8	標茶町	町長　佐藤　吉彦
9	弟子屈町	町長　徳永　哲雄
10	鶴居村	村長　大石　正行

資料１

再生普及行動計画オフィスの取組みについて

１．ワーキンググループ等の開催

■第８回　湿原学習のための学校支援ワーキンググループ（以下　４　参照）
［日時］１月 15 日（火）15：00～16：30
［場所］釧路地方合同庁舎４階第三会議室
［参加者］14 名
［議題］1.ワーキンググループの取組み報告
2.取組みの広報、普及に向けて

■第９回　再生普及推進のための連携チーム会合
［日時］5 月 23 日（木）14：：00～15：40
［場所］釧路地方合同庁舎４階第三会議室
［参加者］10 名
［議題］1.環境教育の取組み及び自然再生への参加機会の実施状況について
2.協議会からの情報発信について
3.第３期再生普及行動計画の評価および第４期計画（案）の検討について
4.その他（各小委員会からの提案・連絡事項等）

２．ワンダグリンダ・プロジェクトの推進

ワンダグリンダ・プロジェクト参加者の取り組み広報、連携した啓発等を行っていく。
・ワンダグリンダ・プロジェクト 2018 参加 60 団体・個人（活動報告書参照）
・ワンダグリンダ・プロジェクト 2019 参加（6 月 25 日現在）62 団体・個人（資料 1-1 参照）

■広報・啓発等の取り組み
教育機関、公共機関・施設等でワンダグリンダ活動報告書を配布し、ワンダグリンダ・プロジェクトの周知を図ったほか、イベント等での活動紹介、メールニュースやホームページ、施設等での行事広報を行った。（以下　３　参照）

■自然再生協議会等が実施する現地見学会等の取組みのとりまとめ
各小委員会事務局やワンダグリンダ・プロジェクト参加者が実施する自然再生事業地の現地見学会や自然再生への参加機会のとりまとめを行った（資料 1-2 参照）。

今後、各種媒体を活用して行事の PR を行うとともに、必要に応じて企画支援を行い、市民参加の拡大を図る。また、共通様式のアンケートの実施、回答の分析を行い、参加機会の拡充を図る。

■フィールドワークショップの実施
○第 22 回フィールドワークショップ～ツルハシナイ川が生まれる不凍の遊水地を訪ねて！～
［日時］2 月 5 日（火）8：30～16：00

［場所］鶴居村
［案内人］新庄久志氏（釧路国際ウェットランドセンター主任技術員）
［参加者］16 名
［アンケートより抜粋］
・夏には入ることの出来ない高層湿原に行くことが出来て良かった.
・ツルハシナイ川がこんなに短いとは知らなかった。源流の水量に驚いた。
・いろいろな方と知り合えた。お会い出来た事は大きな成果だった。
・湿原の最深部を見たのは初めてだったので良い経験、勉強になった。
・ハンノキが実は増えているわけではなく成長が早いだけというお話が大変印象に残った。
・湧き水の水量に驚いた。水温が思ったより高かった。湿原の水生昆虫について知りたい。

今年度についても、夏季、冬季の実施を予定しており、夏季は 8 月 23 日の実施予定。

３．情報発信・普及活動

■イベント、パネル展の開催
○シルバーシティときわ台ヒルズ「釧路湿原自然再生パネル展」
［期間］2 月 1 日（金）～2 月 27 日（水）
［内容］釧路湿原自然再生事業紹介パネル展示
ワンダグリンダ活動紹介（辻野正氏：湿原クラフト作品展示）

○シルバーシティときわ台ヒルズオープニングイベント「釧路湿原について学ぶ自然文化講座」
［日時］2 月 3 日（日）13：00～14：00
［会場］シルバーシティときわ台ヒルズ 1 階ホール
［講師］菊地義勝氏（釧路国際ウェットランドセンター事務局長）
［内容］北国の自然と歳時
［参加者］66 名

○釧路文学館連動企画パネル展「釧路湿原自然再生への取り組み」

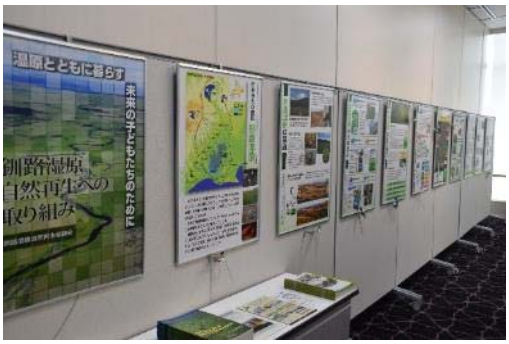
［日時］5 月 29 日（水）～6 月 16 日（日）9：30～19：30

［会場］釧路市中央図書館 7 階展示室

［内容］釧路湿原自然再生事業紹介パネル展示

ワンダグリンダ活動紹介

（田中道人氏：釧路湿原写真展示、辻野正氏：湿原クラフト作品展示）



■WEB サイトへの情報掲載とメールニュースの配信

ワンダグリンダの活動状況や釧路湿原で行われる行事情報をホームページ「みんなで進める！釧路湿原の自然再生」（kushiro-wanda.com/）へ掲載するとともに、メールニュース『ワンダグリンダ☆ニュース』として月 2 回程度の配信を行った。１カ月に一度の頻度でメールニュースの内容をチラシとして取りまとめ、メールニュースへの添付、印刷物の郵送等を行い、受信者に施設等へ掲示いただくことで、より多くの市民が情報に触れるように努めた。

学校教育での湿原の活用に関する情報（以下 4 参照）は、専用サイト「きづく わかる まもる 釧路湿原」（kushiro-ee.jp）に掲載しており、湿原学習の支援事例、教員研修講座の詳細記録の掲載、フィールド情報マップ等の情報更新を行った。

なお、ホームページ掲載情報へのアクセス改善を図るため、サイトのリニューアル、独自ドメイン（kushiro-wanda.com）の取得等を行った。

「みんなで進める！釧路湿原の自然再生」

「きづく わかる まもる 釧路湿原」

４．湿原学習のための学校支援ワーキンググループの取組み課題の推進

■湿原を題材とした学習素材の収集、活用の促進

釧路湿原流域において、フィールド学習が可能な場所を実践例と合わせて紹介する「フィールド情報マップ（平成28年度作成）」に幌呂地区湿原再生事業地およびサルボ・サルルン展望地のフィールド情報、実践事例等を追加した。

今年度についても、2 箇所のフィールド情報の追加を予定している。また、これまでの掲載フィールドを活用した実践の提案、各種支援を行い、学校での活用を図る。

■自然再生の学校教育への活用促進

○自然再生事業地（達古武森林再生事業地）を活用した実践コーディネイト

・標茶町立標茶小学校　教員（5 月 13 日）【フィールドおよび活動の紹介】
・標茶町立標茶小学校　5 年生（5 月 24 日）【苗畑および夢が丘遊歩道でのレクチャー】
・釧路湖陵高等学校　理数科 1 年生（6 月 13 日）【地域巡検に向けた事前準備、レクチャー】

今後も新たな実践づくりに向けて、学校関係者との意見交換、調整を行っていく。

■学校教員の関心喚起、湿原の教育的な価値の普及

○釧路教育研究センター共催教員研修講座の実施

［日時］5 月 14 日（火）9：00～15：50
［場所］釧路湿原野生生物保護センター、釧路町内のフィールド
［講師］照井　滋晴氏（NPO 法人環境把握推進ネットワークーPEG）
［参加者］9 名
［内容］オジロワシ等の大型猛禽類やキタサンショウウオ等の釧路湿原に生息する希少な生き物に焦点を当て、釧路湿原野生生物保護センターのバックヤードツアーやキタサンショウウオ生息地でのフィールドワークを行った。フィールドでの体験と講話を通して、生息を脅かす要因、必要な生息環境、ここ数十年の変化等を学び、私たちの暮らしとの関係についてみつめた。

今後も流域市町村の教育研究所等と連携した研修講座の実施に向けて、関係者との意見交換、調整を行っていく。

○釧路湿原流域環境を題材とした授業づくりの支援、学習発表の場作り

様々な主体との連携・協力のもと、釧路湿原を題材とした授業づくりの支援、学習発表の場づくりに向けた以下の取組を行った。

《連携・協力主体》

北海道教育大学釧路校　境教授、釧路市立中央小学校、標茶町立標茶小学校、釧路市教育委員会、標茶町教育委員会、塘路湖エコミュージアムセンター、標茶町博物館、釧路市こども遊学館等

《取り組み》

・釧路市立中央小学校（12 月 6 日）【児童の発表に向けた助言、意見交換】
・釧路市立中央小学校（12 月 21 日）【発表会での助言、評価表とりまとめ、教員への共有】

・標茶町立標茶小学校（1 月 23 日）【発表会での助言、評価表とりまとめ、教員への共有】
・釧路湿原サイエンスフェア~標茶小学校 5 年生の取組みパネル展　開催
- 標茶町開発センター（1 月 29 日~2 月 3 日）
- 塘路湖エコミュージアムセンター（2 月 4 日~2 月 12 日）
- 標茶町博物館（2 月 14 日~2 月 20 日）
- 釧路市こども遊学館【協力】（3 月 24 日~3 月 31 日）

今年度も標茶町立標茶小学校、釧路市立中央小学校に加え、釧路町立別保小学校と連携した取り組みを行うほか、取り組みの波及に向けて学校への PR を図っていく。また、地域と学校とのつながりづくり、学校への定着に向けて、地域の様々な主体との連携を図っていく。

〇学校における実践の支援
・釧路市立鳥取小学校（2 月 7 日、12 日）

今後も様々な機会を捉えて WG 取組みの周知を図り、学校からの問い合わせに応じて授業支援等を実施していく。

資料 1-1

「ワンダグリンダ・プロジェクト 2019」応募状況

○総数：62 団体

○新規

1.「北海道ウチダザリガニ防除ネットワーク」

活動内容：釧路湿原の貴重の自然環境や保全に携わる魅力的な人々の紹介

2. 宮部　碧

活動内容：釧路湿原についての展示製作。

豊田市のラムサール条約登録湿地での保全活動とその紹介。

「ワンダグリンダ・プロジェクト 2019」参加者一覧

団体数	氏名・団体名	取組み概要	活動数	新規 or 継続
1	愛国幸恵町内会	釧路湿原や町内会周辺の身近な自然の写真、『ワンダグリンダ☆ニュース』の町内会での回覧。	1	継続
2	アトリエ「アリス」	釧路湿原などの自然を含む釧路地域の素晴らしさを描くことによって市民にアピール。	2	継続
		釧路に自生する植物を使ったアート作品の制作と発表。	3	継続
		釧路川周辺の清掃活動の実施。	4	継続
3	イオン釧路店チアーズクラブ	環境学習の実施。	5	継続
4	イオン釧路昭和店チアーズクラブ	地域と自然環境について学習。	6	継続
5	伊勢　志郎	釧路湿原国立公園内の施設、たんちょう釧路空港やタンチョウ鶴関連の施設に来訪記念の折鶴を提供。	7	継続
6	(一財)釧路市民文化振興財団(釧路市生涯学習センター)	～いきいき女性講座～「キラコタン岬とコッタロ湿原展望台から釧路湿原を眺めよう」の実施。	8	継続
		～ふるさと講座～湿原ホタル講座「釧路湿原の夜の隠れた風物詩を探ろう」の実施。	9	継続
		～釧路学教養講座～「釧路湿原を訪ねて～キラコタン岬と自然再生地～」の実施。	10	継続
		～まなぼっとわくわく体験隊～「森とあそぼう 2018」（達古武で自然再生を考える調査体験）の実施。	11	継続
7	(NPO)美しい村・鶴居村観光協会	タンチョウ、湿原による環境のＰＲ及び「湿原マップ」の販売。	12	継続
8	(株)ＦＭくしろ	放送を通じて、湿原の植物や昆虫、動物、歴史などをわかりやすく楽しく発信。	13	継続
9	大八木　英雄	放置された釣糸の回収や清掃活動、達古武湖でのヒシ刈りの実施。釧路湿原を散策して気付いた事を報告。	14	継続
10	お菓子司　二幸	「湿原まんじゅう」の販売。	15	継続
11	(株)カヌープロ	カヌーを通じ、自然の素晴らしさや釧路湿原の大切さを伝える。	16	継続
12	川口　秀人	湿原の様子を写真に収め、カレンダーにして掲示。	17	継続
13	環境コンサルタント(株)	達古武湖でカヌー清掃とヒシ料理試食会を実施。	18	継続
14	(NPO)環境把握推進ネットワーク～PEG	釧路湿原に生息する希少動物や外来動植物に関する学習会や講演会の実施。	19	継続

団体数	氏名・団体名	取組み概要	活動数	新規 or 継続
15	喜多島　麻鈴	コンサートを通じて湿原をＰＲ。	20	継続
16	(NPO)霧多布湿原ナショナルトラスト	霧多布湿原の保全活動を通して、人との交流を深め湿原ファンを増やす。	21	継続
17	釧路国際ウェットランドセンター	地域の人々と一緒に釧路川蛇行復元現場周辺の環境調査を実施。	22	継続
		湿地・生物多様性に係わる途上国の行政官等を対象とした湿地保全やワイズユースに関する研修を実施。（ＪＩＣＡより委託）	23	継続
		ホームページ等による釧路湿原の情報発信。（日本語・英語）	24	継続
18	釧路子ども劇場	温根内川でのザリガニ釣りによるウチダザリガニの駆除。	25	継続
19	くしろ自然再生解説員	「自然再生解説員」により釧路湿原や自然再生事業の取り組みを、細岡展望台を訪れる観光客を対象にわかりやすく解説。	26	継続
20	釧路湿原 MTB クラブ	釧路湿原周辺の林道ツーリングの実施。	27	継続
21	釧路湿原川レンジャー	釧路湿原や釧路川の観察活動および環境学習を通じて良好な河川環境の維持に努める。	28	継続
22	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	クリーンウォークの実施。	29	継続
		ウチダザリガニ駆除調査。	30	継続
		温根内木道での定点解説の実施。	31	継続
23	釧路湿原国立公園連絡協議会	釧路湿原に関する情報を、自然情報誌、ガイドマップ、ホームページなどで提供。	32	継続
		温根内ビジターセンターと塘路湖エコミュージアムセンターで自然ふれあい行事を実施。来訪者に自然解説や情報の提供。	33	継続
		釧路湿原こどもレンジャー活動を実施。	34	継続
		釧路湿原国立公園クリーンデーを実施。	35	継続
24	釧路湿原自然再生協議会	釧路湿原自然再生協議会や各小委員会の情報を発信。（会議公開、HP、ニュースレター発行）	36	継続
		学習会や講演会などの実施。	37	継続
		市民参加の見学会の実施。	38	継続
		パネル展等の実施。	39	継続
		視察・研修等の受け入れ。	40	継続
		自然再生に係わる資料の発刊。	41	継続
25	釧路湿原全国車いすマラソン大会実行委員会	釧路湿原全国車いすマラソン大会の開催。	42	継続
26	釧路湿原マラソン実行委員会	釧路湿原マラソンを通じて湿原の美しさを参加者に伝える。	43	継続
27	釧路市中央図書館	釧路湿原に係わる情報提供、関連講座や展示を通じた湿原の紹介。	44	継続
28	釧路市立博物館	釧路湿原に関わる調査を行い、企画展示や観察会、講演会などで湿原の魅力を伝える。	45	継続
29	釧路シャケの会	シャケの稚魚の里親募集と放流式を実施。	46	継続
30	釧路短期大学	湿原をとりまく地域食材を使用した学生考案の「咲くサクッキー」を ANA クラウンプラザホテル釧路と連携して販売し、湿原の自然再生に還元。	47	継続
31	釧路走ろう会	釧路湿原マラソン大会をはじめ、練習会や個人で湿原の魅力を感じ爽やかな汗を流しながら走る仲間を募る。	48	継続

団体数	氏名・団体名	取組み概要	活動数	新規 or 継続
32	釧路ピラニアブラックス～早川＆渡辺ペア～	釧路湿原を流れる釧路川のゴミ拾いと巡視。	49	新規
33	釧路ボタニカルアートの会	釧路湿原の植物を描く。	50	継続
34	(株)釧路マーシュ＆リバー	釧路川カヌーツーリング、釧路湿原ネイチャーウォーク等の実施。釧路湿原の様子の画像発信等、全国、全世界へ釧路湿原の魅力を発信。	51	継続
35	(NPO)釧路湿原やちの会	釧路湿原の聖域キラコタン岬入口周辺の外来植物オオアワダチソウの駆除。	52	継続
36	こどもエコクラブくしろ	釧路湿原における特定外来生物の調査・防除活動。	53	継続
37	小荷田　行男	釧路湿原とその周辺域の植物生態・自然史・鳥類生態の調査研究。	54	継続
38	木幡　弥乃莉	ワンダグリンダ☆ニュース、ポスター、チラシ等のイラストの作成。	55	継続
39	(一社)釧路観光コンベンション協会	釧路湿原をはじめとする釧路市の観光情報を発信。	56	継続
40	沢田建設(株)	釧路湿原近郊の清掃活動（ごみ拾い）を実施。	57	継続
41	品田　忠	木の枝での作品作りや展示、木工教室を通し湿原からの水の大切さを伝える。	58	継続
42	上智大学　社会とエコロジー“リバーズ”	釧路湿原を軸に、河川の環境保全、野生動物の保護活動などの取り組みを学ぶ。	59	継続
43	シルバーシティときわ台ヒルズ	釧路湿原を学ぶ自然文化講座を実施。	60	継続
44	太平洋総合コンサルタント(株)	標茶高校における体験型の環境教育の実施。（野外での水質調査、生物調査を通して身近な環境を楽しみながら学ぶ）	61	継続
45	タクッパ（ペンネーム）	道東の自然や地名をアイヌ語で紹介。	62	継続
46	竹中　康進	「羽幌みんなでつくる自然空間協議会」によるビオトープづくりの取り組みを紹介。	63	継続
47	田中　道人	ドローンで湿原を撮影し動画で紹介。	64	継続
48	(NPO)タンチョウ保護研究グループ	タンチョウの保護に関する教育普及活動の実施。	65	継続
49	辻野　正	釧路湿原の生き物の生態を紙細工で紹介。作成指導や実演、完成品や作成キットの無料配布や展示の実施。	66	継続
50	(株)鶴居村振興公社 鶴居どさんこ牧場	北海道和種馬（通称：どさんこ）による釧路湿原国立公園を含む地域でのホーストレッキングで、多くの方々に地域の自然を楽しんで頂く。	67	継続
51	(NPO)トラストサルン釧路	ナショナルトラスト地の環境保全作業にボランティアの方と共に取組む。湿原やトラスト地の観察会を実施。	68	継続
52	(株)日専連釧路	「日専連フィッシャーマンズワーフカード」の利用額の一部を釧路湿原国立公園連絡協議会を通じて子供達の野外活動に役立つものを寄付。	69	継続
53	西村　咲輝	釧路湿原でのバードウォッチングを楽しみながら清掃活動を実施。	70	新規
54	西村　孝広	釣りの自警活動の一環として釣り場周辺の清掃活動の実施。	71	継続
		オオハンゴンソウ駆除活動の実施。	72	継続
55	(公財)日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	タンチョウの冬季自然採食地の整備、普及教育、生息環境調査の実施。	73	継続
56	北海道阿寒高等学校	「地域巡検」を実施し、釧路湿原の学習を中心にすえ、自然の大切さを体験学習。	74	継続
57	北海道ウチダザリガニ防除ネットワーク	釧路湿原の貴重な自然環境や保全に携わる魅力的な人々を紹介。	75	新規

団体数	氏名・団体名	取組み概要	活動数	新規 or 継続
58	ミュージックサロン・タジマ	カラオケ発表会を通して湿原のＰＲや募金活動を実施。	76	継続
59	宮部　碧	釧路湿原についての展示製作。	77	新規
		豊田市のラムサール条約登録湿地での保全活動とその紹介。	78	新規
60	やちラボ	釧路湿原の旬の自然情報をワンダグリンダ事務局に届ける。	79	継続
		釧路湿原の魅力を地元の人々や観光客に伝える。	80	継続
		釧路湿原に生息する「やちぼうず」の魅力をＰＲ。	81	継続
61	雷別ドングリ倶楽部	シラルトロ湖上流の立枯れ被害にあった森林で市民参加型の自然再生事業を実施。	82	継続
62	酪農学園大学　環境地球化学研究室	釧路湿原における物質循環についての研究。	83	継続
62 団体・個人/83 取組み				

施設数	施設名	広報支援内容	新規 or 継続
1	釧路市民活動センターわっと	ワンダグリンダ☆ニュース、ポスター等の掲示	継続
2	釧路町温水プール	ワンダグリンダ☆ニュース、イベントポスター、チラシ等の掲示	継続
3	釧路町地産地消センターロ・バザール	イベントポスター、チラシ等の掲示	継続
4	釧路町総合体育館	ワンダグリンダ☆ニュース、イベントポスター等の掲示、チラシ配架	継続
5	達古武オートキャンプ場	ワンダグリンダ☆ニュース、イベントポスター等の掲示、チラシ配架	継続
6	細岡ビジターズラウンジ	ワンダグリンダ☆ニュース、イベントポスター等の掲示、チラシ配架	継続
7	標茶町博物館	ワンダグリンダ☆ニュース、イベントポスター等の掲示、チラシ配架	継続
8	豊文堂書店北大通店	ワンダグリンダ☆ニュース、イベントポスター、チラシ等の掲示	継続
8 施設			

○ワンダグリンダ・プロジェクト　参加団体・活動の推移

2005　38 団体・39 取組（事務局の事業等を含む）
2006　31 団体・49 取組
2007　35 団体・61 取組
2008　42 団体・75 取組
2009　47 団体・82 取組
2010　45 団体・76 取組
2011　47 団体・75 取組
2012　50 団体・74 取組
2013　53 団体・80 取組
2014　57 団体・79 取組
2015　60 団体・81 取組
2016　60 団体・81 取組
2017　60 団体・81 取組
2018　60 団体・80 取組
2019　62 団体・83 取組

資料 1-2

環境教育の取組み及び自然再生への参加機会について

各小委員会事務局から提供いただいた情報は次のとおり。　　●：主催事業　　○：協力事業

主催	各小委員会事務局が主催または支援を行う取組み
湿原再生	＜釧路開発建設部治水課＞ ● 釧路湿原を再生しよう！未利用地を湿原に再生する取組み　幌呂地区湿原再生現地見学会 日時：令和元年７月 25 日（木） 場所：幌呂地区湿原再生箇所（鶴居村下幌呂） 内容：事業説明＋現場見学＋自然再生体験（ヨシ移植・外来種防除） 対象：一般市民 ＜環境省＞ ●アウトドア好き集まれ in 達古武湖（仮） 日時：令和元年８月 25 日（日） 場所：釧路町達古武湖 内容：カヌーを使ってのヒシ刈り 対象：一般市民
旧川復元	＜釧路開発建設部治水課＞ ● 釧路湿原を再生しよう！直線河道を蛇行河川に戻す取組み　旧川復元現地見学会 日時：令和元年７月～9 月 場所：茅沼地区旧川復元箇所（標茶町コッタロ原野） ﾇﾏｵﾛ地区旧川復元箇所（標茶町オソベツ原野） 内容：事業説明＋現場見学（復元箇所ｅボート川下りほか） 対象：一般市民

森林再生	＜林野庁 釧路湿原森林ふれあい推進センター＞ ●雷別ドングリ倶楽部 （雷別国有林の森林再生のためのボランティア活動） 日時：年３回開催予定 場所：雷別国有林（標茶町雷別）他 内容：広葉樹の植樹と保護管（ツリーシェルター）の被覆等の森林整備活動他 ＜環境省＞ ●自然再生を考える調査体験会 2019「森づくりと生き物調べ」（仮） 日時：令和元年９月 14 日（土） 場所：達古武の森林再生地 内容：事業説明＋現場見学＋森の動物調査 対象：まなぼっと探検隊（釧路市生涯学習センターと共催） ●自然再生を考える調査体験会 2020「沢の生き物調べ」（仮） 日時：令和２年２月（予定） 場所：達古武の森林再生地 内容：事業説明＋現場見学＋冬の沢の生き物観察 対象：一般市民
水循環	＜釧路開発建設部治水課＞ ●釧路川流域の水・物質循環の体験 日時：令和元年 10 月～12 月 場所：幌呂地区（湧水、自然再生）等 内容：水や土砂などのメカニズムの現地見学 対象：一般市民・協議会委員 ●公開シンポジウム 日時：令和元年 10 月～2 年１月 場所：未定 内容：水・物質循環に係るシンポジウムなど 対象：一般市民・協議会委員
地域づくり	（今年度の活動内容検討中）
土砂流入	＜北海道釧路総合振興局 釧路建設管理部治水課＞ ●久著呂川自然再生の見学ツアー 日時：令和元年８月 27 日（火） 場所：久著呂川流域及び事業実施箇所 内容：事業説明＋現場見学 対象：一般市民

再生普及	＜環境省＞ **●体感！釧路湿原～環境教育の視点から～** 日程：令和元年5月14日（火） 場所：環境省釧路湿原野生生物保護センター 釧路町内のフィールド 内容：フィールドワーク＋座学＋取組みの紹介 対象：小学校・中学校・高等学校教員 共催：釧路教育研究センター **●第23回フィールドワークショップ** 日時：令和元年8月23日（金） 場所：細岡（予定） 内容：未定 対象：ワンダグリンダ・プロジェクト参加者 **●湿原研究発表ボード企画展示** 日時：令和2年1月～3月（3箇所程度） 場所：未定 内容：湿原を題材とした研究発表ボード取組み校（4校程度を予定）での展示ボード選定（評価フィードバック）、学外展示 対象：取組み校における児童、一般 **○標茶町立標茶小学校 現地予察【実施支援】** 日程：令和元年5月13日（月） 場所：達古武地区森林再生事業地、夢が丘木道 内容：フィールドおよび活動案説明 対象：標茶小学校教諭 **○標茶町立標茶小学校【実施支援】** 日程：令和元年5月24日（金） 場所：達古武地区森林再生事業地、夢が丘木道 内容：フィールドワーク＋取組みの紹介 対象：標茶小学校5年生児童 **○釧路湖陵高等学校 釧路湿原巡検事前学習【実施支援】** 日程：令和元年6月10日（月） 場所：釧路湖陵高等学校 内容：座学 対象：釧路湖陵高等学校　理数科1学年生徒 **○釧路湖陵高等学校 釧路湿原巡検事前予察【実施支援】** 日程：令和元年6月13日（木） 場所：達古武地区森林再生事業地 内容：取組みの紹介＋トラップ設置 対象：釧路湖陵高等学校　理数科1学年代表生徒	ワンダグリンダ参加活動による実践予定 **○みんなで調べる復元河川の環境・2019夏** 日時：令和元年6月15日（土） 場所：釧路川茅沼地区 内容：蛇行復元された水辺環境の調査 対象：一般（環境調査） 主催：釧路国際ウェットランドセンター **○特定外来生物ウチダザリガニの捕獲体験** 日時：令和元年7月28日（日） 場所：温根内ビジターセンター 内容：ウチダザリガニの捕獲体験と試食 対象：親子参加（小学生以上） 主催：釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会＆こどもエコクラブくしろ **○カヌーDE清掃 in 達古武湖** 日時：令和元年9月頃（予定） 場所：達古武湖 内容：未定 対象：一般 主催：環境コンサルタント株式会社

再生普及	＜環境省＞ **○釧路湖陵高等学校　釧路湿原巡検【実施支援】** 日程：令和元年6月26日（水） 場所：達古武地区森林再生事業地、夢が丘木道および展望台 内容：フィールドワーク＋取組みの紹介 対象：釧路湖陵高等学校　理数科1学年生徒 **○釧路市立中央小学校【実施支援】** 日程：令和元年7月11日（木） 場所：温根内木道 内容：フィールドワーク 対象：中央小学校5年生児童 **○釧路町立別保小学校【実施支援】** 日程：令和元年9月4日（水） 場所：細岡（予定） 内容：フィールドワーク 対象：別保小学校5年生児童 **○釧路市立中央小学校【実施支援】** 日程：令和元年9月25日（水） 場所：温根内木道 内容：フィールドワーク 対象：中央小学校5年生児童 **○標茶町立標茶小学校【実施支援】** 日程：令和元年9月（予定） 場所：標茶小学校 内容：中間発表会での助言 対象：標茶小学校5年生児童 **○釧路市立中央小学校【実施支援】** 日程：令和元年9月（予定） 場所：温根内木道 内容：中間発表会での助言 対象：中央小学校5年生児童 **○標茶町立標茶小学校【実施支援】** 日程：令和元年12月（予定） 場所：標茶小学校 内容：学習発表会での助言 対象：標茶小学校5年生児童 **○釧路市立中央小学校【実施支援】** 日程：令和元年12月（予定） 場所：中央小学校 内容：学習発表会での助言 対象：中央小学校5年生児童	

資料２

第３期釧路湿原自然再生普及行動計画の評価および第４期計画（案）の検討について

１．検討の背景と方針

・釧路湿原自然再生普及行動計画（以下、行動計画）は、釧路湿原自然再生協議会（以下、協議会）としての取組み方針をまとめたものであり、５年毎に評価し見直すこととしている。
・前回の見直しから５年が経過したことから、第３期行動計画の実施状況について、協議会としての取組みを評価し、今年度末の改訂を行う。
・行動計画の見直しにあたっては、行動計画の実施状況の評価を踏まえ、推進連携チームおよび再生普及小委員会での議論、第26回協議会での承認を経て、第４期行動計画として策定する。

２．検討スケジュール

時期	概要	備考
6/25	・**第33回再生普及小委員会** 行動計画の実施状況の評価、改訂の方針に係る議論	
７月 ～ 10月	⇒ 実施状況の評価を踏まえた改訂の方針案を作成 ・各事務局、推進連携ﾁｰﾑ座長、再生普及小委員長、協議会会長との意見交換 ⇔ 改訂の方針を検討、改訂案の作成	
11月	・**第10回推進連携チーム** 改訂の方針、改定案に係る意見交換 ⇒ 改訂の方針、改訂案の見直し等	
12月	・**第34回再生普及小委員会** 改訂の方針、改訂案に係る議論 ⇒ 改訂の方針、改訂案の見直し等	推進連携ﾁｰﾑ座長、再生普及小委員長と意見交換
２月 ～ ３月	・**第26回協議会** 行動計画の実施状況の評価、第４期行動計画案に係る議論 ⇒ 第４期行動計画の策定	WEBサイト掲載

３．第３期行動計画の実施状況

■第 3 期行動計画の考え方

- 原則：「できる者」が「できること」から取り組む
- 人々が湿原と接して関心を持ち、学ぶことで湿原のことを正しく知り、そこから湿原のために行動し、賢明に利用することで地域の暮らしや産業を豊かにしていくことを目指すもの。

■第 3 期行動計画の４つの柱

①湿原にふれる、楽しむ：効果的な情報発信と関心の拡大
②湿原を学ぶ、湿原で学ぶ：学校・地域の環境教育の推進
③湿原のために行動する：自然再生への市民参加の促進
④湿原と地域のくらしをつなぐ：地域産業への貢献

■再生普及行動計画オフィスの取組み

第 3 期行動計画より、行動計画の推進事務局として再生普及行動計画オフィスが設置され、以下の取組みを行ってきた。第 4 期についても同様の枠組みでの実施を予定している。

- 各小委員会事務局との連携　再生普及推進のための連携チームの運営
  - ・環境教育の取組みや自然再生への参加機会づくり、基金の活用方針、ウェブサイト等による情報発信の方針等を議論。
- 市民参加・環境教育の推進　ワンダグリンダ・プロジェクトの推進（資料 2-1 参照）
  - ・平成 27 年度から平成 30 年度の参加は 60 主体。令和元年度は現在 62 主体が参加。
  - ・多用な主体が様々な取組みを実施し約 15,000 人（平成 30 年度）が湿原との接点を持った。
  - ・自然再生事業地での見学会等への参加者は 50 代以上が 6 割、道外からの参加は 1 割程度見られる。行事により新規参加者率は異なるが、いずれも行事参加者の満足度は高い。
- 学校教育との連携　湿原学習のための学校支援ワーキンググループの運営（資料 2-2 参照）
  - ・平成 27 年度から平成 30 年度の学校の学習サポートは 15 校、延べ 47 件。
  - ・釧路教育研究センターや教員の研究会等と連携し 12 回の教員研修講座を実施。
  - ・このうち、12 件の学校の学習サポート、7 回の教員研修講座は自然再生事業地を活用。
  - ・学校カリキュラムとしての定着、学校教育関係主体と連携した取組みに広がっている。
- 情報発信・普及活動　情報発信ツールの作成・改修、普及広報の実施（資料 2-3 参照）
  - ・釧路湿原自然再生ガイドブックの作成、パネルの更新、関係サイト改修等を実施。
  - ・メールニュース、WEB サイト、紙媒体等を通した各取組みの広報。
  - ・ワンダグリンダプロジェクト参加者等と連携した普及啓発機会の企画・実施。

■協議会構成員を対象としたアンケート回答　（資料 2-4 参照）

15 主体から回答があり、第 3 期行動計画の 4 つの柱に対する回答は以下。

- 湿原にふれる、楽しむ　「進んだ」または「ある程度進んだ」と 8 割が回答
  - ・成果：湿原との接点の増加、多様なアプローチへの広がり、若い世代への啓発、域外利用者増、施設来訪者増
  - ・課題：湿原と接点を持つ市民の裾野拡大、計画的なハード整備と有効利用、利用マナー啓発
- 湿原を学ぶ、湿原で学ぶ　「進んだ」または「ある程度進んだ」と 7 割が回答
  - ・成果：学校教育を含め幅広い世代が学べる機会がある、学校・行政・団体等の連携、自然再生事業地の活用増、教員への啓発
  - ・課題：多様な場面で様々な学校が取り組むことができる湿原を学ぶ基盤づくり、サポート体制
- 湿原のために行動する　「進んだ」または「ある程度進んだ」と 5 割が回答
  - ・成果：再生事業地の現地見学会等の定着、湿原に接する・自然再生を知る機会の増加
  - ・課題：一般市民への情報発信、若い世代・親子等への関心・参加の拡大、主体的な活動の喚起、湿原との日常的な接点づくり、湿原の防災機能・再生事業が果たす役割の認知促進
- 湿原と地域のくらしをつなぐ　「進んだ」または「ある程度進んだ」と 5 割が回答
  - ・成果：様々な形での釧路湿原の活用、再生事業の認知拡大
  - ・課題：自然再生の枠組みの持続可能性についての議論と実践、地域づくりの資源として情報整理と啓発、ワイズユースの働きかけ、再生事業の必要性（湿原の課題）の理解拡大

４．第３期行動計画の評価について

行動計画の評価にあたっては、再生普及行動計画オフィスの取組み状況や協議会構成員を対象としたアンケート回答、各事務局等との意見交換、再生普及小委員会での議論を踏まえて、検討していく。

評価の指標については、第 3 期行動計画に挙げた「期待する成果」を踏まえて、数値化が可能なものについては定量的な評価を行い、合わせて評価の指標（拠り所）を検討して、定性的な評価を行う。また、協議会としての取組みの評価に合わせて、現在の市民と釧路湿原との関わりを可能な範囲で把握し、第 4 期行動計画案の検討に反映していく。

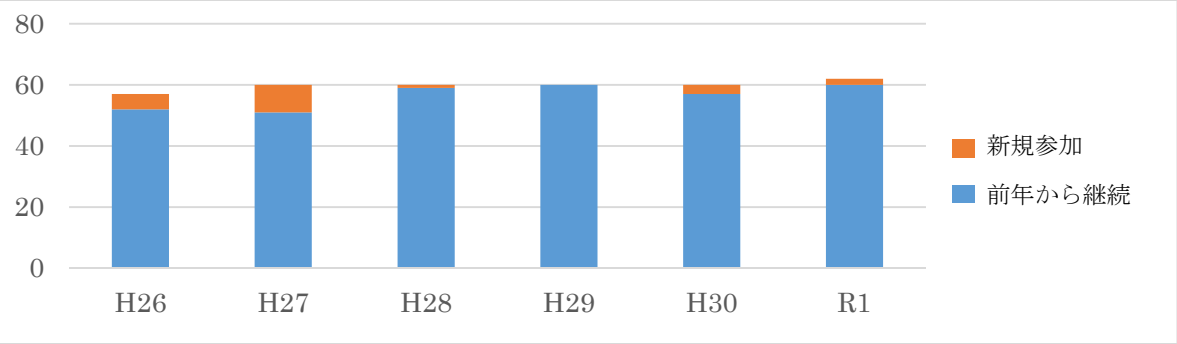
資料 2-1

ワンダグリンダ・プロジェクト　実施状況

行動計画に多くの人々が参加するための仕組みで、釧路湿原に関わる取組みの集まり。ワンダグリンダ・プロジェクトの実施を通して市民が釧路湿原に関わる機会づくりを行ってきた。

■参加主体数

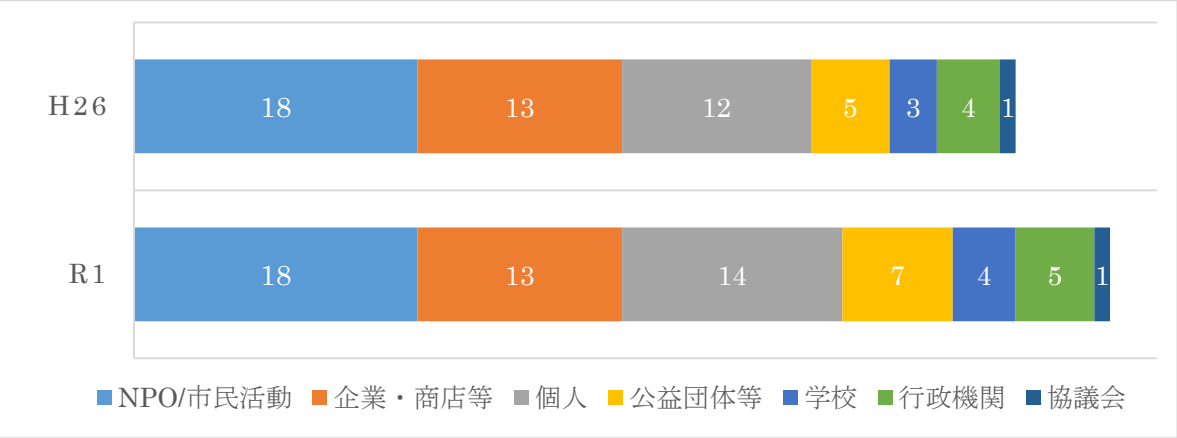
第 3 期行動計画期間の参加数は、平成 27 年度から平成 30 年度は各年 60 主体、令和元年度は 62 主体。継続して参加する主体が多いが、各年度で若干数の主体に入れ替わりがある。



グラフ 1. ワンダグリンダ・プロジェクト登録主体数（平成 26 年～令和元年）

■参加主体の概要

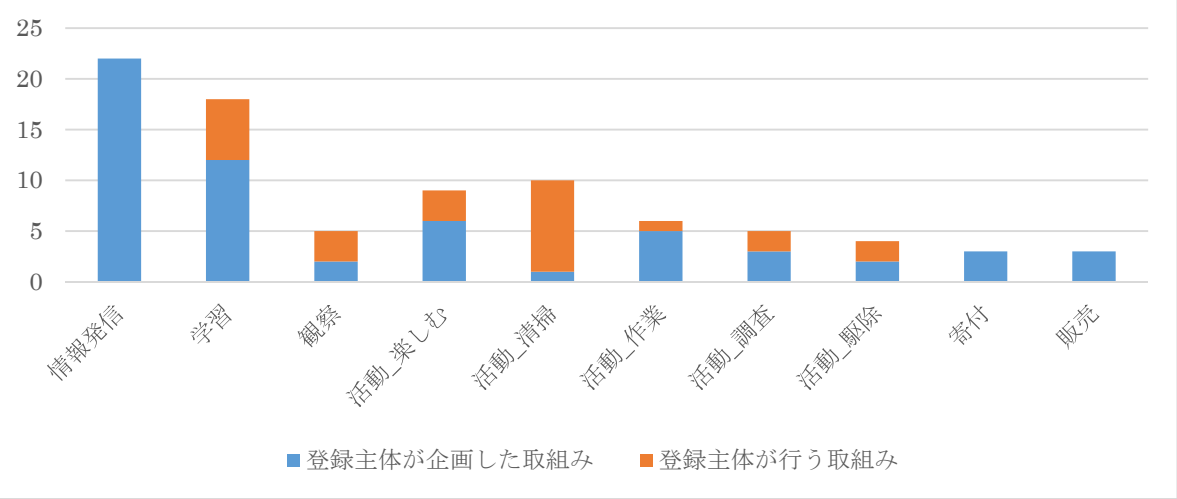
多様な主体がバランスよく参加している。第 2 期行動計画期間（平成 26 年度）と 3 期行動計画期間（令和元年度）では概ね同様の傾向が見られる。



グラフ 2. 参加主体の概要（平成 26 年度および令和元年度）

■取組みの概要

登録主体が一般市民を対象に企画した取組みと、登録主体が自ら行う取組みが見られ、幅広い取組みが行われている。



グラフ 3. ワンダグリンダ・プロジェクト 2019　登録活動の概要

■湿原と接点を持った市民の数

平成 30 年度の参加主体の報告より算定可能な参加数などの累計は 277 企画で約 15,000 人であった。このほか、約 30 主体が行う取組みへの参加、湿原に関係する商品の販売等を通して、市民が湿原との接点を持った。

表 1.　ワンダグリンダ・プロジェクト 2018 において湿原と接点を持った市民の数

マラソン等のレクリエーション行事の参加者数	登録主体が企画した勉強会、フィールドでの学び、保全や再生の取組み参加者延べ人数	展示等の閲覧者数	登録主体自らの取組み延べ人数	合計
2,600 人	5,555 人	6,407 人	581 人	15,143 人

■ワンダグリンダプロジェクト参加主体への体験機会の提供

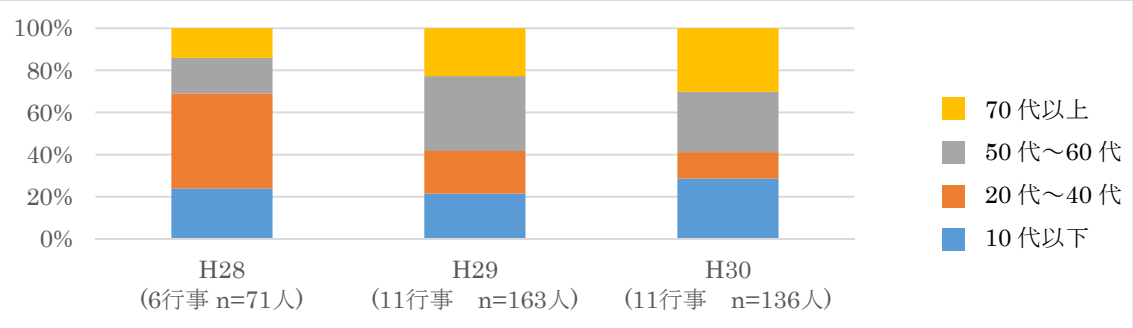
参加主体の交流を図るとともに、自然再生の必要性と目指す姿の双方を体感する企画として、8 回のフィールドワークショップを実施し、延べ 141 名が参加した。

■アンケート集計行事からみた「保全や再生への取組み」への参加者の分析

協議会事務局やワンダグリンダ・プロジェクト登録者が実施する自然再生事業地等で行われた見学会、保全や再生等の取組みの一部では、平成 28 年度から共通様式のアンケートの収集、分析を行ってきた。

○参加者の年齢層

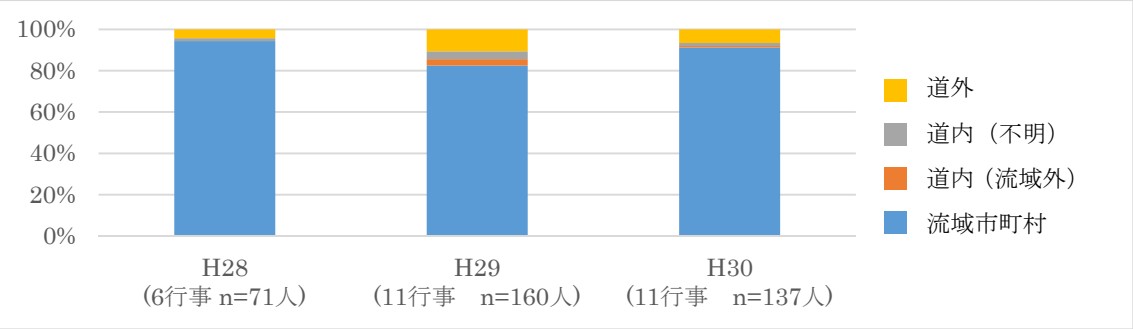
平成 29 年度、平成 30 年度は、50 代以上の参加者が 6 割を占める。行事により参加者の年齢層に違いが見られる。



グラフ 4. 参加者の年齢層

○参加者の居住地

釧路湿原流域市町村からの参加が 9 割近くを占めるが、関東等から来訪した長期滞在者、札幌等の流域外からの参加も見られる。長期滞在者については、これら行事への参加を滞在の目的の一つとして挙げる方も多く見られる。

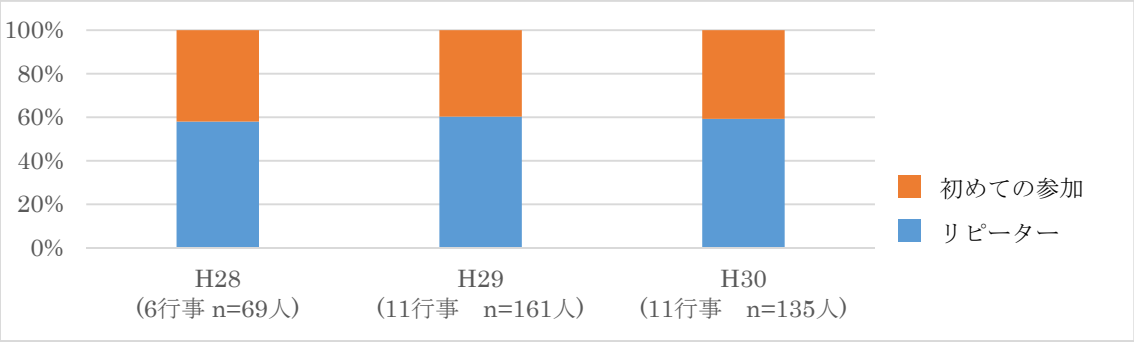


グラフ 5. 参加者の居住地

○行事への参加回数

全体としてはリピーターが 6 割を占めるが、行事によって差が大きい。

※新規参加者の割合が 5 割以上であった行事：達古武湖湿原再生事業地でのヒシ婚（平成 28 年、平成 29 年）、雷別森林再生事業地での植樹（平成 29 年、平成 30 年）、ワンダグリンダプロジェクト参加主体によるタンチョウの食事場づくり（平成 29 年、平成 30 年）、みんなで調べる復元河川の環境・秋（平成 28 年、平成 30 年）。



グラフ 6. リピーターの割合

〇参加行事の感想等

参加行事の満足度、参加行事が自然再生につながった実感、湿原の保全や自然再生への参加の意向の３つの設問では、概ね９割の参加者が肯定的な回答をしている。

自然再生につながった実感がないと回答した参加者には、見学だけであった、実際に保全活動に参加したわけではない、１回の参加ではわからない、そうしたフィールドに行かなかった等の意見が見られた。

表 2. 参加者の感想等

設問	行事への満足度	参加した活動が自然再生につながった実感があるか？	今後も湿原の保全や自然再生に関わっていきたいと思うか？
回答	「とても満足」または「やや満足」と回答	「とてもある」または「ややある」と回答	「とても思う」または「やや思う」と回答
平成 28 年 (n=71)	94%	86%	94%
平成 29 年 (n=165)	92%	87%	88%
平成 30 年 (n=137)	95%	90%	94%

資料 2-2

湿原学習のための学校支援ワーキンググループ　取組み課題の推進

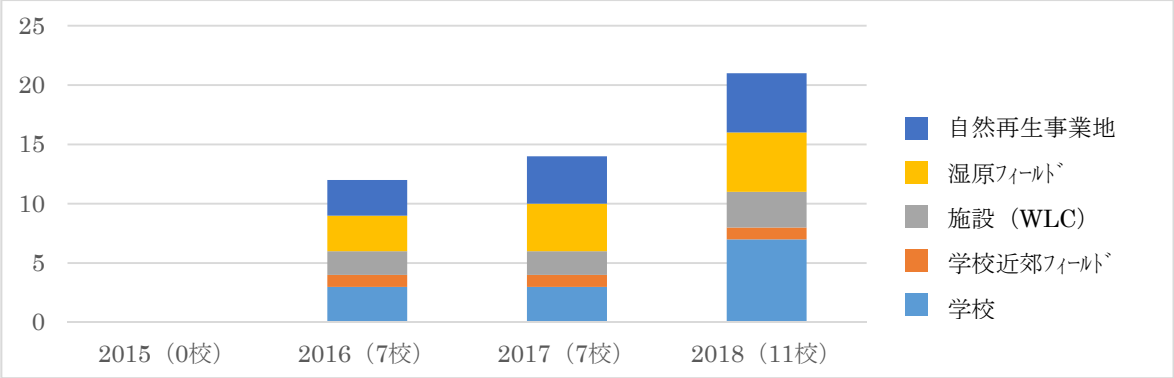
第 3 期行動計画より、以下の取組み課題の推進を図る目的から湿原学習のための学校支援ワーキンググループ（以下、学校支援 WG）が設置された。学校教員、教育委員会、専門家をメンバーとして、取組み課題の推進方策の検討、参加委員を含めた多用な主体と連携した取組みを行ってきた。

・取組み課題１：湿原を題材とした学習素材の収集、活用の促進
・取組み課題２：自然再生の学校教育への活用促進
・取組み課題３：学校教員の関心喚起、湿原の教育的な価値の普及

■学校との連携、学習のサポート（平成 27 年度から平成 30 年度までの集計値）

第 3 期行動計画より学校との連携、学習サポートを積極的に行い、29 主体と連携し、15 校、延べ 47 件の学習サポートを行った。教員からの評価は高く、継続した学習サポートの希望も多い。令和元年度現在、把握できた範囲では 11 校が釧路湿原と関係する学習を継続している。

また、上記のうち自然再生事業地を活用したフィールド学習は、5 つの事業地で 12 件実施した。授業カリキュラムとしての学校への定着や波及を目的として、フィールド学習実施後の学習サポート、他校へ提案を積極的に行い、令和元年度現在、3 校で自然再生事業地を活用した学習が授業カリキュラムに位置づけられ、継続した学習が行われている。



グラフ 7. 学習サポート実施場所

■教員研修講座（平成 27 年度から平成 30 年度までの集計値）

釧路湿原の教育的な価値の普及や教員の関心喚起を目的として、15 主体と連携し、教員研修講座を 12 回実施し、参加者は延べ 123 名になった。

学校支援 WG 委員を対象とした 2 回の講座を除き、釧路教育研究センター、釧路湿原流域市町村の教育研究所理科部会、高等学校の研究会等と連携して行い、いずれの主体からも研修へ

の評価は高く、継続した連携を行ってきている。研修をきっかけとして、6 校で自然再生事業地を活用したフィールド学習や学習サポートにつながった。

また、このうち 7 回の講座では、7 つの自然再生事業地を活用し、各事業地における課題、取組み等をテーマとして実施した。

■関係主体との連携による推進（平成 27 年度から平成 30 年度までの集計値）

学校支援 WG 会合での議論のほか、委員や協議会事務局、施設等の主体を個別に訪問し、延べ 166 件の意見交換を行ってきた。対面での関係づくりを重視したことにより、上記の学校や研究会との連携、効果的な学習サポートや研修講座の企画、学校への PR 等、学校支援 WG の取組み課題の推進に資する多様な取組みにつながった。

《取組みの主な成果》

・釧路湖陵高校が実施するスーパーサイエンスハイスクールのカリキュラムへの定着

・北海道教育大学釧路校 境教授の課題研究との連携（※研究ボードを活用した学習）

⇒標茶小学校 5 年生の総合的な学習の時間におけるカリキュラムへの定着

→全国事例紹介での発表、多様な主体と連携した学習サポート、学外企画展への広がり

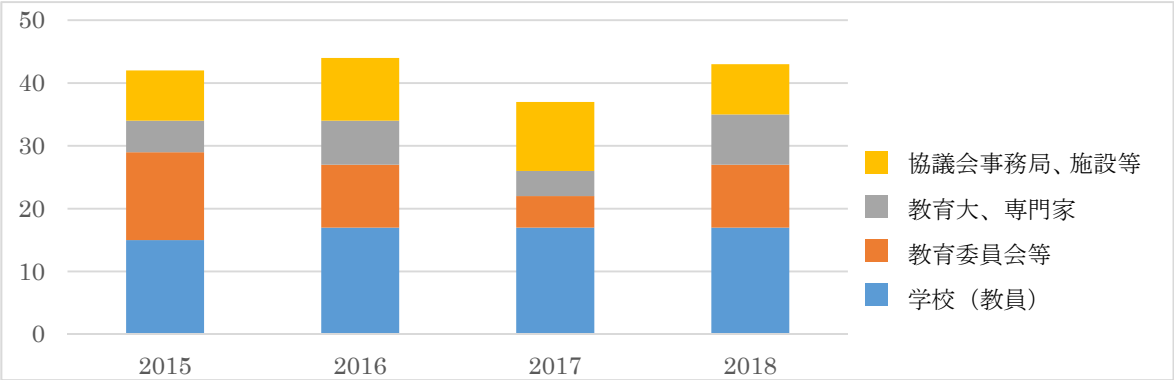
⇒多様な場を通した PR、他校への波及

・釧路教育研究センター、教員の研究会等と連携した教員研修講座の継続した実施

・各小委員会事務局と連携した教員研修講座、学習サポートの実施

・教育委員会等との連携、協力による取組み

⇒学校へのメールニュース配信、校長会等での PR、学校への声かけ、学習サポート



グラフ 8. 各主体との意見交換の件数

資料 2-3

情報発信・普及活動

第 3 期行動計画において、以下の取組みを行った。

■情報発信ツールの作成、改修等

・釧路湿原自然再生ガイドブックの作成（平成 29 年 12 月発行、英語版：平成 31 年 3 月発行）
・釧路湿原自然再生紹介パネルの更新（平成 31 年 3 月）
・ワンダグリンダプロジェクト募集リーフレットの作成（平成 27 年作成、平成 28 年改修）
・ワンダグリンダプロジェクト活動報告の発行（各年 6 月発行）
・学校支援 WG 取組み PR チラシの作成（平成 27 年作成、平成 30 年改修）
・WEB サイト「みんなで進める！釧路湿原の自然再生」の改修（平成 31 年 4 月）
・WEB サイト「きづく わかる まもる 釧路湿原」の改修（平成 31 年 3 月）

■普及広報の実施

・メールニュースの配信（月 2 回程度配信、配信数 275 主体）、WEB サイトへの情報掲載
・紙媒体の掲示、配布、口頭での PR による各取組みの周知
・紙面ニュースレターの掲示（毎月 28 か所に掲示）
・ワンダグリンダプロジェクト参加者等と連携した啓発の企画・実施（延べ 28 件）
・WEB サイト「みんなで進める！釧路湿原の自然再生」への情報掲載（分析中）
・WEB サイト「きづく わかる まもる 釧路湿原」への情報掲載（ｱｸｾｽ数 4364/平成 30 年度）

資料 2-4

釧路湿原自然再生協議会構成員を対象としたアンケート回答

・対象者：釧路湿原自然再生協議会構成員（130 主体）
・回答者：15 主体（個人 3、団体 4、行政 5、オブザーバー3）
・実施期間：平成 31 年 4 月 25 日～令和元年 5 月 22 日

○人々と湿原の接点の拡大～湿原にふれる、楽しむ～（行動計画 7 頁）

進んだ・ある程度進んだ（80%）進んでいない（13%）わからない（7%）【ｎ=15】

【成果】

湿原との接点の増加、多様なアプローチへの広がり、若い世代への啓発、域外利用者増、施設来訪者増

《主な意見》

・湿原への多様なアプローチの広がり
・釧路湿原との接点増（展望台、遊歩道、カヌー、観光列車）
・国立公園指定 30 周年事業を通して関係者、若い世代への啓発につながった。
・施設への来訪者数増、域外利用者増加（温根内ビジターセンター、湿原展望台）
・ボランティアとしての道民参加、保全への意識の芽生え
・ワンダグリンダプロジェクト参加主体の定着、増加、登録主体の実施行事を通した流域住民の湿原との接点増加
・子どもエコクラブ、各種ボランティア等の活動
・施設、SNS 等での情報発信

【課題】

湿原と接点を持つ市民の裾野拡大、計画的なハード整備と有効利用、利用マナー啓発

《主な意見》

・各種活動の裾野拡大
・能動的でない利用者、一般市民への情報発信（認知の促進）
・若い世代の参加促進
・釧路湿原保全の重要性、魅力、湿原との接し方・楽しみ方の具体的 PR
・子どもたちが湿原の不思議を体験する機会の増加
・この地域の自然・文化・歴史等の貴重さを理解するための他地域との文化交流の促進
・ワンダグリンダ登録主体の活動にスポットを当てた PR
・ワンダグリンダ新規参加主体増
・ソフト事業とともに計画的なハード面での整備、施設の有効利用
・利用マナーの啓発

○湿原に関する環境教育の推進～湿原を学ぶ、湿原で学ぶ～（行動計画８頁）

進んだ・ある程度進んだ（73%）進んでいない（20%）わからない（7%）【ｎ=15】

【成果】

学校教育を含め幅広い世代が学べる機会がある、学校・行政・団体等の連携、自然再生事業地の活用増、教員への啓発

《主な意見》

・学校教育、社会教育において幅広い世代が体験的に学べる機会がある
・自然再生事業地の活用増（複数団体が主催行事実施）、市民が学ぶ機会がある
・学校教育との連携、行政・団体・施設の連携による学校側の多様なニーズへの対応
・研修講座を通した学校教員に対する関心喚起、湿原の教育的な価値の普及

【課題】

多様な場面で様々な学校が取り組むことができる湿原を学ぶ基盤づくり、サポート体制

《主な意見》

・管内の多くの学校で気軽に湿原を学べる基盤づくりとツールの開発
・学年に合わせたカリキュラムの策定、サポート体制の構築
・多角的な科目での活用
・研修講座参加教員による学校での活用
・学校教員との調整
・対応日数の限度
・釧路湿原の歴史や魅力の発信
・湿原と地域産業との繋がりの理解促進
・主体的に親しみをもって関わる土壌づくり

○自然再生への地域・市民の参加～湿原のために行動する～（行動計画９頁）

進んだ・ある程度進んだ（53%）進んでいない（33%）わからない（13%）【ｎ=15】

【成果】

再生事業地の現地見学会等の定着、湿原に接する・自然再生を知る機会の増加

《主な意見》

・再生事業地での視察会等が行われ、参加者の関心が高くリピーターも多い
・環境教育の中で外来種駆除を行うことで自然再生を知る機会となっている
・一般の方が湿原に接する事例の増加
・一部の方は主体的に親しみを持って活動に参加
・形として湿原に関わることができる体制が整備されてきた

・自然再生協議会、小委員会への一般市民の参加
・基金を通した活動がある

【課題】
一般市民への情報発信、若い世代・親子等への関心・参加の拡大、主体的な活動の喚起、湿原との日常的な接点づくり、湿原の防災機能・再生事業が果たす役割の認知促進

《主な意見》
・一般市民への情報発信（認知の促進）
・若い世代への自然環境の継承と関心拡大
・新規、若い世代の参加増、親子で参加できる体験的な学習機会の増加
・参加者や賛同者の主体的な活動に結び付ける仕掛けが必要
・日常的なレクリエーション等の対象として湿原が受け入れられるソフト、ハードの充実
・自然崇拝として湿原を心のよりどころ、日々の感謝の対象にしていく必要がある
・釧路湿原の防災機能の啓発、河川改修事業等が防災面で果たす役割の認知促進
・外来種駆除以外の自然再生の普及を行っていない
・寄付金の拡大と基金の活用促進

○自然再生をとおした地域への貢献～湿原と地域のくらしをつなぐ～（行動計画 10 頁）
進んだ・ある程度進んだ（47%）進んでいない（33%）わからない（20%）【ｎ=15】

【成果】
様々な形での釧路湿原の活用、再生事業の認知拡大

《主な意見》
・ＭＩＣＥ、学術研究、環境教育などのフィールドとしての活用度
・観光資源、レクリエーションの場としての活用度
・健康増進活動等のフィールドとしての活用度
・地元の大学からのアルバイトの受け入れ
・再生事業が認識されるようになってきた事
・様々な地域産業の連携
・一部の方々と湿原の結びつきは協議会を通して結束が強固になった
・カヌーガイドラインの作成

【課題】
自然再生の枠組みの持続可能性についての議論と実践、地域づくりの資源として情報整理と啓発、ワイズユースの働きかけ、再生事業の必要性（湿原の課題）の理解拡大

《主な意見》
・自然再生の枠組みの持続可能性についての議論と実践
・経済活動や消費活動を組み込む際に、地域住民、来訪者に対して高い訴求効果を得るための打ち出し方の

工夫

・地域づくりの資源としての、釧路湿原及びそのコンテンツに関する情報整理と啓発
・地域産業との連携を行っていない
・自然再生による地域産業への具体的な貢献
・湿原への来訪者・滞在者へのワイズユースの働きかけ
・再生事業の必要性（湿原の課題）の理解拡大
・精神的な対象としての湿原への理解、行動の喚起
・単純な寄付行為への魅力を感じない風潮にある

○行動計画見直しにあたっての考慮すべき視点、意見

ルールづくり、湿原と人々との接点拡大、市民参加や地域への具体的な貢献、危機管理の視点が必要

《主な意見》

・自然へ過剰な人々の介入は抑制するべき。
・マスメディアを通したアピール、自然系施設での成果等の情報掲示（写真や絵による直感的な理解の促進）。
・WEB サイト等は湿原に興味のある人しか見ない。道民に対し湿原の現状を知ってもらうためのアピールが必要。
・わかりやすいリーフレット等を用いた普及啓発の実施。
・行動計画において人々と湿原の接点拡大が特に重要であり、手段としてワンダグリンダプロジェクトがある。参加団体の推移、行事参加者中の新規参加者数の推移、参加動機等の分析により今後の道筋が見えてくる。
・MICE 等により湿原とは直接関係がない来釧者を対象とした連携が取れれば、無関心層との接点が生まれる。ワンダグリンダ登録団体のうち、興味のあるものを調べることができる媒体があると良い。
・さらに、湿原と関わる多様な取り組み、アプローチが研究され、普及される事。
・自然再生への市民参加、地域への貢献については特に実装が遅れている。行動計画の拠点でもあるビジターセンターの運用を持続可能にする上でも、これらを着実に進めていく必要がある。
・地域住民と地域産業が連携した活動を充実させ、湿原の保全に取り組める環境づくりを期待する。
・可能な限り広範に、多くの人々が参加しやすい形でのパブリックコメントの実施
・釧路湿原が災害に見舞われた際の復旧・復興に関するある程度の青写真を考えておくこと、外国資本による土地買収の状況も把握しておくことが重要。今の時代では大きな社会環境から受ける力から釧路湿原を守ることも想定し危機管理小委員会を立ち上げておくことも重要。

アンケート共通項目

●あなたの年齢、学校、性別、どこからいらっしゃったかを教えてください。

［年齢］　9才以下　10代　20代　30代　40代　50代　60代　70才以上

［学校］　小学生　中学生　高校生　専門学校生　大学生

［性別］　男性　女性

どこから？　道内　（市町村：　　）　道外　（都府県：　　）

●今日の行事をどのようにして知りましたか？

チラシ･ポスター　新聞　ラジオ　インターネット　知人　その他（　　）

●今日の活動のご感想をお聞かせ下さい

とても満足　やや満足　どちらともいえない　やや不満　とても不満

よろしければその理由を教えて下さい

（　　）

●今日の活動が釧路湿原の自然再生につながったという実感がありますか？

とてもあった　ややあった　どちらともいえない　あまり感じない　ほとんど感じなかった

よろしければその理由を教えて下さい

（　　）

●釧路湿原の保全や再生に今後ともかかわっていきたいと思いますか？

とても思う　やや思う　どちらともいえない　あまり思わない　まったく思わない

●これまでにも釧路湿原の自然再生に関連するイベントに参加したことがありますか？

ある　（このイベント　　回　・　他のイベント　　回　）　ない

●今後どのような行事があったら参加したいと思いますか？

●そのほかご意見をお聞かせ下さい